

ハンドボールにおけるクラブ型チームと企業チームの可能性

—琉球コラソンと豊田合成ブルーファルコンを対象として—

生涯スポーツゼミナール 1316064 矢野航暉

1. 研究動機・研究目的

今回の卒業研究の動機は、日本ではまだ「ハンドボール」という競技への認知がされていなく、自分自身が友人にハンドボールをしているといった時にはっきりとどのようなスポーツなのかを知らない人が多いと痛感することが何回もあった。どのように広めていけばいいのかと考えた時に、いま日本の最前線でプレーしている、日本ハンドボールリーグ、そしてそこに参入しているチームについて研究すれば何かが分かるのではないかと思い研究することにした。現在日本ハンドボールリーグでは企業チームが主体となっていて、クラブ型チームが圧倒的に少ない。両チームならではのメリットやデメリットを明らかにし、課題を見つけることで、日本ハンドボールリーグの発展だけでなく、日本でのハンドボールのメジャー化に繋がるのではないかと考えた。

そこで、本研究では日本ハンドボールリーグにおいて琉球コラソンと豊田合成ブルーファルコンのチーム現状を把握し、今後の発展に繋がる課題を明らかにしたい。

2. 研究方法

本研究では、日本ハンドボールリーグにおけるクラブ型チームと企業チームの共存や発展に向けて、男子リーグ唯一のクラブ型チームである琉球コラソンと企業チームの代表として豊田合成ブルーファルコンの現状と課題を、インタビュー調査、文献調査、ウェブ調査、メディア調査を実施することで把握した。

3. 主な結果と考察

先行研究では、ハンドボールに関する研究をしている文献がほとんどなく、同じ球技種目であるバレーボールについて研究を行った。そこでは、クラブ型チーム、企業チームそれぞれの問題などが明確にされていた。クラブ型チームでは、主に運営をしていくための資金が一番の課題となっていることが分かった。そして実際に選手が競技を行いながら、クラブの運営を並行して行っているチームもあることを知り、選手として競技一本だけに集中できない環境が出来てしまっていることが選手に対してかなりの負担となっているのではと考えた。企業チームでは、以前までの企業がチームの運営を丸抱えするような体制から、ここ

最近では企業のスポーツ部の廃部や休部などの問題に直面し、運営の形態自体が変わってきていることが分かった。一つのスポーツチームを一つの企業のみで運営しきことは困難になっているが、地域などの支えにより、関わり方を少しずつ変化させていることが明らかになった。琉球コラソンへのインタビュー調査の結果、クラブ型チームが直面する資金面はまだ解決されていなく、チームの全収入の大半がスポンサー収入となっていて、さらなる新規スポンサーの獲得に努めていることが明らかとなった。本拠地が沖縄にあるため、他県のファンやハンドボールに気になっている人が気軽に応援しに行くことが難しいと思う。そのため今取り組んでいる試合運営や企画立案、ファンクラブなどを工夫することで集客の面も変わるのではないかと考える。他には琉球コラソンと豊田合成ブルーファルコンの両チームとも地域活動に力を入れていることがホームページとインタビュー調査の結果分かった。地域や自治体に支援をしてもらい、そこからチームの認知を上げ、発展を目指していることが分かった。

4. 結論

今のスポーツチームの在り方から見てもチームが地域に根付くことはとても重要なことが明らかになっている。ハンドボールという競技自体の認知度や、チームの認知度を上げるためには地元の地域の方や自治体の支援が必要となっていて、そこから少しずつ広まっていくことで今後のそのハンドボールチームだけでなくハンドボールという競技が日本に広まり発展に繋がるのではないかと考えた。そして、チーム形態が変わりつつある企業チームだけでなく、クラブ型チームも時代の変化に合わせて変わっていくことでチーム自体が長く継続され続けるのではないかと考えた。

そして、ハンドボールに関係する一人一人が意識をするだけでなく、行動に移し、周りを巻き込むことが今自分たちの出来ることではないかと考えた。

5. 卒業論文の執筆を終えて

本研究を進めるにあたり、多くの方のご指導、ご助言、ご協力を賜りました。この場を借りて心より感謝を申し上げます。インタビュー調査にご協力いただいた、琉球コラソンの深山様、豊田合成ブルーファルコンの関係者の方々には日本リーグ中というお忙しい期間に親切にご協力いただき心から感謝いたします。そして、指導教官である黒須充教授には大変お世話になりました。お忙しい中、卒業論文の面倒を見ていただき、無事書き終えることが出来ました。本当にありがとうございました。